

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-76641

(P2006-76641A)

(43) 公開日 平成18年3月23日(2006.3.23)

|                               |                      |             |
|-------------------------------|----------------------|-------------|
| (51) Int. Cl.                 | F I                  | テーマコード (参考) |
| <b>B 6 5 D</b> 5/54 (2006.01) | B 6 5 D 5/54 3 O 1 A | 3 E O 6 O   |
| <b>B 6 5 D</b> 5/10 (2006.01) | B 6 5 D 5/10 H       |             |

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

|           |                              |          |                                  |
|-----------|------------------------------|----------|----------------------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2004-265191 (P2004-265191) | (71) 出願人 | 000115980                        |
| (22) 出願日  | 平成16年9月13日 (2004. 9. 13)     |          | レンゴー株式会社                         |
|           |                              |          | 大阪府大阪市福島区大開4丁目1番186号             |
|           |                              | (74) 代理人 | 100074206                        |
|           |                              |          | 弁理士 鎌田 文二                        |
|           |                              | (74) 代理人 | 100084858                        |
|           |                              |          | 弁理士 東尾 正博                        |
|           |                              | (74) 代理人 | 100087538                        |
|           |                              |          | 弁理士 鳥居 和久                        |
|           |                              | (72) 発明者 | 大村 恵子                            |
|           |                              |          | 大阪市福島区大開4丁目1番186号 レンゴー株式会社中央研究所内 |
|           |                              | Fターム(参考) | 3E060 AA03 AB05 BA02 BC02 CE05   |
|           |                              |          | CE07 CE13 CF05 DA14 DA16         |
|           |                              |          | EA06 EA13                        |

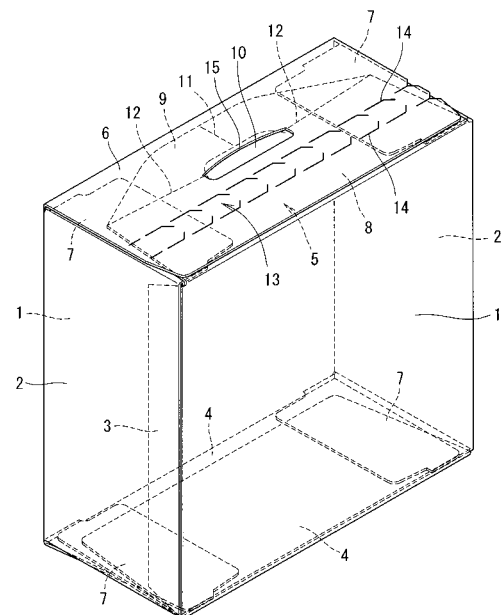
(54) 【発明の名称】 再封緘機能付包装箱

(57) 【要約】

【課題】 引裂帯を切断して開封した後、容易に再封緘でき、その状態から容易に再開封できる包装箱を提供する。

【解決手段】 内蓋フラップ5の先端側に摘み部9を設け、差込片10を内蓋フラップ5の本体部8から摘み部9への切込により形成し、摘み部9の中央部分に先端縁から差込片10の切込へ向けて縦罫線11を入れ、摘み部9の基端罫線12を差込片10の基部から両側方へかけて先端側へ傾斜させる。引裂帯13を引き裂いて開封した後、外蓋フラップ6に内蓋フラップ5を重ね、差込片10の部分を下方へ押圧すると、内蓋フラップ5の摘み部9が上方へ持ち上がるように撓んで、摘み部9から分離した差込片10が差込穴15に差し込まれるので、容易に再封緘できる。また、その状態から摘み部9を引き上げると、差込片10が差込穴15から引き抜かれるので、容易に再開封できる。

【選択図】 図2



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

対向する側板の上縁から内蓋フラップ及び外蓋フラップを、端板の上縁から端フラップをそれぞれ延出し、外蓋フラップに切目線に挟まれた横方向の引裂帯を設け、端フラップを内側へ折り曲げ、引裂帯より先端側で外蓋フラップを内蓋フラップに貼り合わせて封緘し、引裂帯を引き裂いて、外蓋フラップを切断すると開封され、内蓋フラップの差込片を外蓋フラップの差込穴に差し込むと再封緘できるようにした包装箱において、前記内蓋フラップの先端側に摘み部を設け、前記差込片を内蓋フラップの本体部から摘み部への切込により形成し、摘み部の中央部分に先端縁から差込片の切込へ向けて縦罫線を入れ、摘み部の基端罫線を差込片の基部から両側方へかけて先端側へ傾斜させたことを特徴とする再封緘機能付包装箱。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

この発明は、引裂帯を切断して開封した後、再封緘できるようにした包装箱に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来、菓子等の包装箱として、図 7 に示すように、対向する側板 51 の上縁から内蓋フラップ 53 及び外蓋フラップ 54 を、端板 52 の上縁から端フラップ 55 をそれぞれ延出し、外蓋フラップ 54 に、鉤形の切目が断続する 2 本の平行な切目線 57 に挟まれた横方向の引裂帯 56 を設け、端フラップ 55 を内側へ折り曲げ、引裂帯 56 より先端側で外蓋フラップ 54 を内蓋フラップ 53 に貼り合わせて封緘するものが使用されている。

## 【0003】

この包装箱は、引裂帯 56 を一端から引き裂いて、外蓋フラップ 54 を切断すると、図 8 に示すように、上端面が開封されて開口し、その後、内蓋フラップ 53 の先端に設けた差込片 58 を、外蓋フラップ 54 に形成したスリット状の差込穴 59 に差し込むと、再封緘することができる。

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

しかしながら、上記のような包装箱では、再封緘に際し、内蓋フラップ 53 を丸めるように撓ませつつ、差込片 58 を浅い角度で差込穴 59 に狙いを定めて差し込まなければならず、再封緘しづらいという問題があるほか、その状態から再開封する際、差込片 58 を差込穴 59 から引き抜くのも容易でないという問題がある。

## 【0005】

そこで、この発明は、引裂帯を切断して開封した後、容易に再封緘でき、その状態から容易に再開封できる包装箱を提供することを課題とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0006】

上記課題を解決するため、この発明は、対向する側板の上縁から内蓋フラップ及び外蓋フラップを、端板の上縁から端フラップをそれぞれ延出し、外蓋フラップに切目線に挟まれた横方向の引裂帯を設け、端フラップを内側へ折り曲げ、引裂帯より先端側で外蓋フラップを内蓋フラップに貼り合わせて封緘し、引裂帯を引き裂いて、外蓋フラップを切断すると開封され、内蓋フラップの差込片を外蓋フラップの差込穴に差し込むと再封緘できるようにした包装箱において、前記内蓋フラップの先端側に摘み部を設け、前記差込片を内蓋フラップの本体部から摘み部への切込により形成し、摘み部の中央部分に先端縁から差込片の切込へ向けて縦罫線を入れ、摘み部の基端罫線を差込片の基部から両側方へかけて先端側へ傾斜させたのである。

## 【発明の効果】

## 【0007】

10

20

30

40

50

このような包装箱は、引裂帯を引き裂いて開封した後、外蓋フラップに内蓋フラップを重ね、差込片の部分を下方へ押圧すると、内蓋フラップの摘み部が上方へ持ち上がるように撓んで、摘み部から分離した差込片が差込穴に差し込まれるので、容易に再封緘することができる。また、その状態から摘み部を引き上げると、差込片が差込穴から引き抜かれて、容易に再開封することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、この発明の実施形態を添付図面に基づいて説明する。

【0009】

図1に示すように、この包装箱の板紙製ブランクでは、各一对の側板1及び端板2が交互に連設され、一方の側板1の外側縁には継代片3が設けられている。各側板1の下縁には底フラップ4が連設され、一方の側板1の上縁には内蓋フラップ5が、他方の側板1の上縁には外蓋フラップ6がそれぞれ連設されている。また、各端板2の上下縁には、端フラップ7がそれぞれ連設されている。 10

【0010】

内蓋フラップ5には、本体部8の先端側に摘み部9が連設され、本体部8から摘み部9への切込により差込片10が形成されている。摘み部9の中央部分には、先端縁から差込片10の切込へ向けて縦野線11が入れられ、摘み部9の基端野線12は、差込片10の基部から両側方へかけて先端側へ傾斜している。

【0011】

外蓋フラップ6には、横方向の引裂帯13が設けられ、この引裂帯13は、鉤形の切目が断続する2本の切目線14に挟まれたものとなっている。引裂帯13の基端側には差込穴15が形成され、この差込穴15は、差込片10の差込方向への幅を有し、差込片10の先端側に対応する端縁は膨出弧状とされている。 20

【0012】

上記ブランクを組み立てて菓子等の商品を包装するには、図2に示すように、各一对の側板1及び端板2を角筒状に折り曲げ、継代片3を反対側の端板2の内面に貼着して周壁を形成し、下方の端フラップ7を内側へ折り曲げ、底フラップ4同士を貼り合わせて底面を閉止する。その後、箱内に商品を収納し、上方の端フラップ7を内側へ折り曲げ、引裂帯13より先端側で外蓋フラップ6を内蓋フラップ5に貼り合わせて封緘する。 30

【0013】

この包装過程においては、端フラップ7、内蓋フラップ5及び外蓋フラップ6の重なり合う関係が従来の包装箱と同様であるため、包装箱の使用が保有する既存の包装ラインを改造することなく、そのまま利用することができる。

【0014】

そして、このように封緘した包装箱を開封する際には、図3及び図4に示すように、引裂帯13を一端から引き裂き、外蓋フラップ6を切断すると、外蓋フラップ6及び内蓋フラップ5を開くことができる。この開封状態では、外蓋フラップ6の先端側部分が内蓋フラップ5に貼り付けられたまま残存する。

【0015】

一方、上記のように開封した包装箱を再封緘する際には、図5及び図6に示すように、外蓋フラップ6に内蓋フラップ5を重ね、差込片10の部分を下方へ押圧すると、縦野線11が山折り方向に折れ曲がると共に、基端野線12が谷折り方向に折れ曲がり、内蓋フラップ5の摘み部9が上方へ持ち上がるように撓んで、摘み部9から分離した差込片10が差込穴15に差し込まれるので、容易に再封緘することができる。 40

【0016】

また、その状態から再び開封する場合には、縦野線11の部分で摘み部9の先端部の下面に指を掛けて、摘み部9を引き上げると、内蓋フラップ5を丸めるように撓ませたりすることなく、差込片10が差込穴15から引き抜かれるので、容易に再開封することができる。 50

## 【図面の簡単な説明】

## 【0017】

【図1】この発明に係る再封緘機能付包装箱のブランクを示す図

【図2】同上の包装箱の封緘状態を示す斜視図

【図3】同上の開封過程を示す斜視図

【図4】同上の開封状態を示す斜視図

【図5】同上の再封緘過程を示す斜視図

【図6】同上の再封緘状態を示す斜視図

【図7】従来の再封緘機能付包装箱の封緘状態を示す斜視図

【図8】同上の開封状態を示す斜視図

10

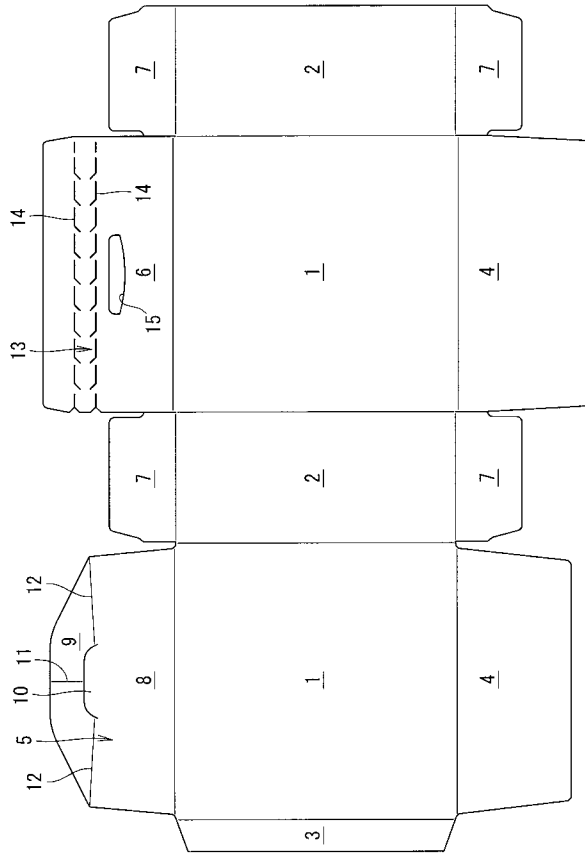
## 【符号の説明】

## 【0018】

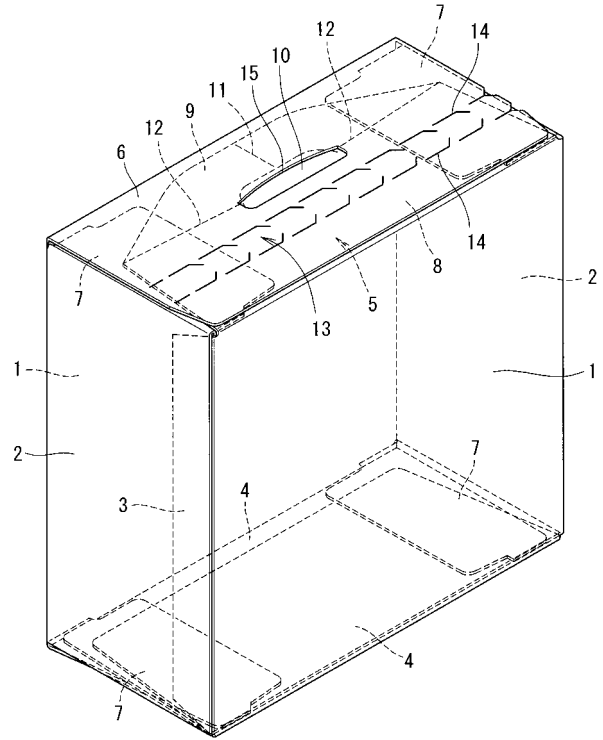
- 1 側板
- 2 端板
- 3 継代片
- 4 底フラップ
- 5 内蓋フラップ
- 6 外蓋フラップ
- 7 端フラップ
- 8 本体部
- 9 摘み部
- 10 差込片
- 11 縦罫線
- 12 基端罫線
- 13 引裂帯
- 14 切目線
- 15 差込穴

20

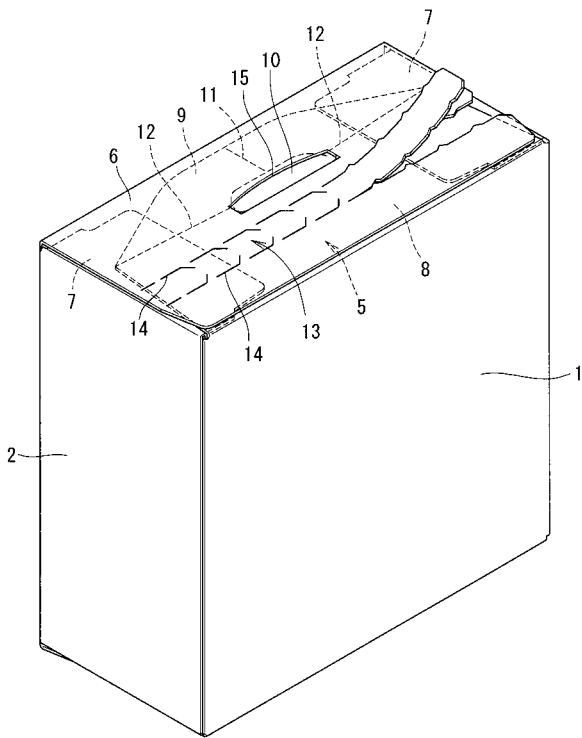
【図 1】



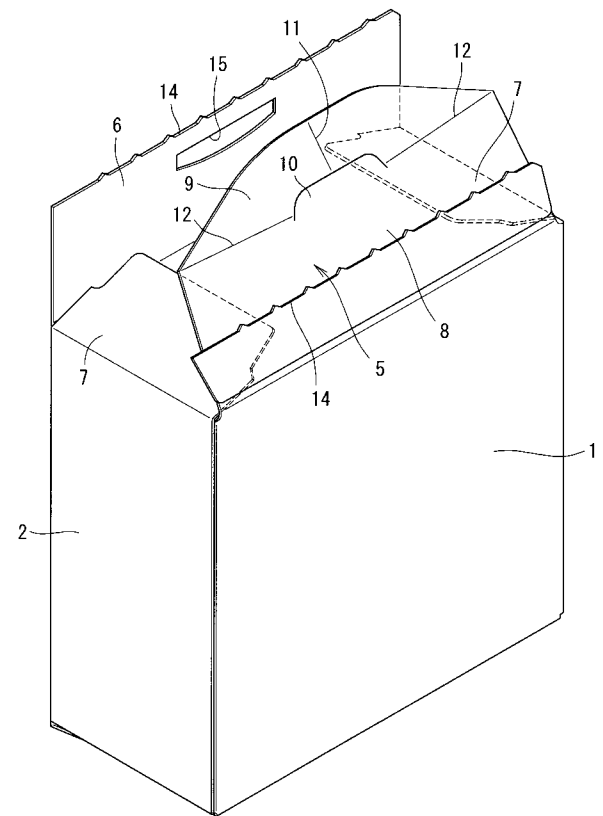
【図 2】



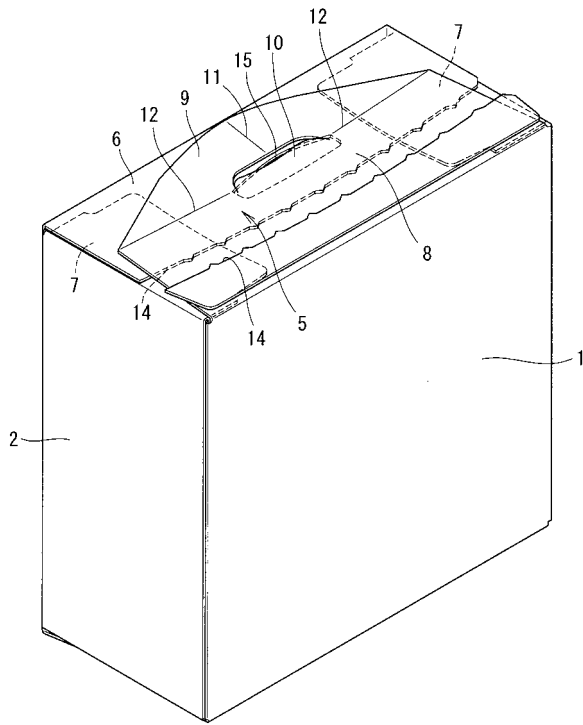
【図 3】



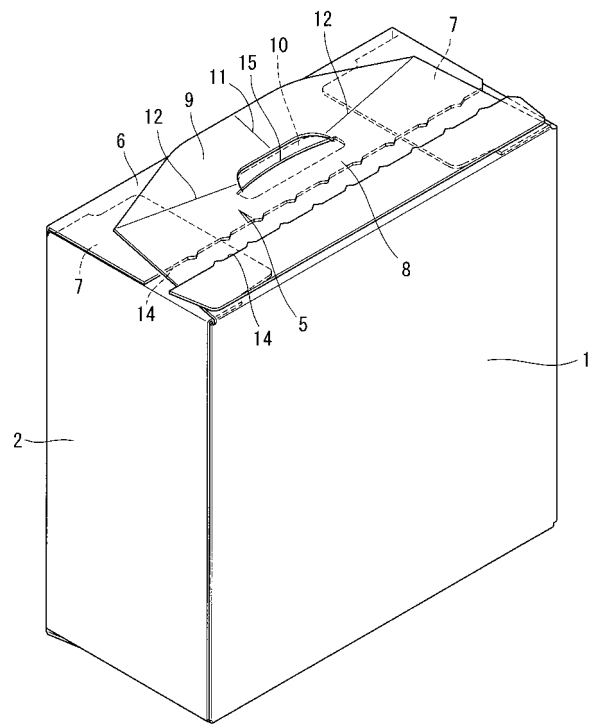
【図 4】



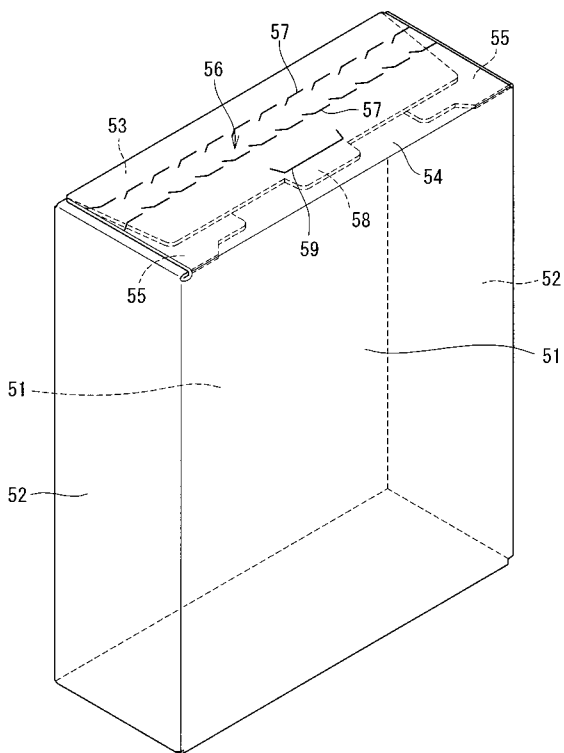
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

